

令和2年度 第3回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

1 日 時 令和3年2月2日（火）午前10時～正午

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員）大谷裕美子委員（議長）・三村明弘委員（副議長）・浦林直子委員・大辻哲男委員・上武敏一委員・近藤裕一委員・清水泰之委員・土本みさ子委員・中田弘司委員・中嶋宏明委員・平井富久子委員
松尾正則委員

（事務局）八重生涯学習部長・清水生涯学習課長・井川生涯学習課長補佐・西野図書館長・入井図書副館長・平澤図書館北分館長・西スポーツ振興課長・谷江生涯学習課主幹兼生涯学習文化係長・上田生涯学習文化係員・小関生涯学習文化係員

（欠席者）白樫学委員・徳田浩平委員

（会議の公開・非公開） 公開

（傍聴者）1名

4 議事内容

（1）令和3年度 生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）について事務局から説明。

（2）その他

内容（1）令和3年度 生駒市社会教育基本方針及び重点目標（案）について

（質疑・意見）

土本委員 寿大学の講座の充実とあったが、具体的にはどのような面での充実か。人気のクラブや講座は定員を超えるので入りたくても入れないと聞いたことがあるが、講座数の充実を指しているのか。

高齢者は移動が困難なので、移動図書館の導入はとても良いと感じた。

事務局 寿大学は、クラブによっては定員を超える希望があり、抽選を実施していた年度もあるが、現在は抽選無しで希望に沿っている。今年度から、健康体操や歴史クラブといった新規クラブの設置によるクラブ学習の充実のほか、日常生活に役立つ実務講習やボランティア講座など今後の地域活動につながる講座を増やすなど、講座内容の充実に重点を置いている。

中嶋委員 コミュニティ・スクールと連携した「気らくネット」「たけのこ」の事業推進とあるが、具体的にどういった事業を指しているか。

「移動図書館導入」と、「100の複合型コミュニティ」とでは意味がどう違うか教えて欲しい。

事務局 「気らくネット」は壺分小学校でのお手伝いを、「たけのこ」は小学校・幼稚園で交流イベントを行うなど、学校区単位での活動を進めており、次年度も引き続き推進する。学校運営協議会との連携も強めていく。

「100の複合型コミュニティ」については、連携して何かサポートできたら、と考えている。また、現在「まちかど図書館」という取り組みで各地域に本を置いていただいているが、本の管理の面に加えて、本の紹介などをしていただけて話せる場がないと、なかなか利用が難しいといった意見が聞かれる。移動図書館を通して、各地域に本を持って行って、職員が同行しておはなし会を開催するなど、取り組みを進めていきたい。移動図書館の訪問先については、希望を募り決定する予定。各ステーションへは、図書館の現行の返却期限に合わせて2週間頻度でまわる。移動図書館は市内全ての地域に呼びかけることから、100の複合型コミュニティ以外の場所へも訪れることができる点に違いがある。

移動図書館の取り組みによって本の管理や場づくり等の課題が解決につながることを期待している。

中田委員 気らくネットとコミュニティ・スクールの連携は、寿大学の卒業生が地域に入っていくのが目に見えて良いと感じた。

移動図書館については、普段図書館に訪問することが難しい山中地域がメインになると見込んでいるがどうか。また、一口に移動図書館と言っても司書が同行するかも気になっている。本は知識の蓄積だけではなく、人とつながるツールでもあるはずなので、現状を知りたい。

事務局 山中地域への訪問はもちろん視野に入れているが、交通の便と図書館の利用率は必ずしも関係しているとは見ていない。便利な場所に住んでいても利用しない市民は一定いるので、場所に関係なく進めたい。職員は同行予定。

平井委員 生駒の図書館は長きに渡って様々な工夫をしてきた。開館当初からBM（地下書庫）も設置されており、当初からの計画にブックモバイルがあった。生駒市子どもの本連絡会が、50年間様々な実践を経て一周まわってきた印象。毎年実施しているサマーフェスティバルについて記載がないが、図書館と一緒に、本と学校を結びつける事業として位置付けているので、ぜひ重点目標の事業として追加して欲しい。

生駒ふるさとミュージアムでは毎年お正月イベントを実施しており、かるた取りもその一部。いこまについて書かれた「生駒ふるさと・かるた」はとても人気なので、市内の全校に1セットずつ設置すると良いと思う。地元を知るツールとして市民と新たにつくるのも一つであるし、可能であれば今あるものを複製し、活用して欲しい。

事務局 サマーフェスティバルは、過去に開催していた文庫まつりを進化した形で、昨年度は南第二小学校で開催した。来年度は北部方面で開催したいと計画している。

「生駒ふるさと・かるた」についてはいただいた意見をもとに、今後、活用してもらえよう検討していきたい。

松尾委員 基本的な目標については良いと感じている。歴史と文化についてはもう一歩踏み込んで、地元と融合し、往馬大社など、現地で生駒の歴史について学ぶ機会をつくる方法もあるのではないか。「100の複合型コミュニティ」と連携して地元の方たちの力を活用するべきだと感じている。

全体の方針は理解できたが、社会教育委員として具体的に何をすべきかを考えることと併せて、地域で意識が浸透しているかも注視する必要がある。「この行事は社会教育事業の一環です。」と事業チラシに常に記載するなど、周知徹底を促すことも委員の役割だと感じている。

事務局 現在、ふるさとミュージアムでは出前講座などを行っているが、地域に出向いてその地域の歴史を学ぶ機会は必要と考えている。
また、行っている事業は社会教育事業であるとして、市民のみなさんに周知することの必要性はご指摘いただいたとおりである。ご意見を参考にして取り組んでいきたい。

清水委員 「地域とつながる機会づくり」とあるが、機会づくりは手段であり、目標ではない。具体的な目的や目標が必要だと考えている。他市では目標となる人間像を示しているところもあり、生駒市においては第2次生駒市教育大綱 基本理念内に「いこまびと」の記載があるので、キーワードになると考えている。

また、「重点目標」として記載されている表現の中に「具体的な事業内容(予定)」と重複した表現が散見されるため、文言を整理してはどうか。

事務局 教育は人づくりであり、ご指摘のとおり、教育大綱にある「いこまびとを育てる」こととの整合性を図る意味でも、基本方針の表現については今後、一考することとしたい。
重点目標は、重複した表現については修正させていただく。

近藤委員 コミュニティ・スクールは地域の人材発掘や市民力の発展への一助となる期待が持てる。

第2次生駒市教育大綱アクションプラン内の「困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実」で目標値を設定するのはいかがなものかと感じている。

事務局 数値達成だけを目標とする趣旨ではなく、「ユースネットいこま」の支援内容周知に努めて、これまでたどり着けていない当事者や家族に情報が届き、1人でも多く相談窓口につながってもらうことを目指すという趣旨で目標を設定している。

上武委員 生駒市史編さん事業について、産業の移り変わりという視点も取り入れられるのか知りたい。

電子図書についての記事も読んだが、具体的にはこういった手順で利用できるのか。

事務局 現時点では具体的な内容は決まっていないが、近年、生駒市においても近現代史研究が進んでいるので、産業についても編さん内容に含まれるであろうと見ている。編さん事業は長期に渡るため、ぜひご意見頂戴していきたい。

電子図書の利用については、電子書籍のお申込をしていただく必要があるが、自身の携帯やタブレットで簡単に利用できるため、ぜひ積極的に活用していただきたい。

大辻委員 生駒市体育協会からの出席という立場から、次年度以降に向けた発言をしたい。令和2年度に文部科学省は、休日の部活動を従来の学校主体から、スポーツ団体や文化団体、あるいは保護者会、民間企業等が休日の部活動指導を担うという、地域主体にしていく部活動改革案を示された。その中で、休日の部活動の全責任は実施者が担うと示されているが、とてもハードルが高いと感じている。各地域で実践研究を行い、令和5年度以降段階的に実施されていくが、行政がしっかりとした指針を立てて育成をしていく必要があると考えている。

浦林委員 令和3年度は生駒市制50周年を迎えるため、周年に絡めた事業等、通常と異なった内容はわかりやすく打ち出すなど、意識されてはどうか。

ユニバーサルキャンプは集団宿泊をともなった交流等、オンラインでの実施は難しいと感じるが、コロナ禍での対応についてはどう考えているか。

「ユースネットいこま」におけるzoomやskypeを活用したオンライン相談は、相談希望者が相談に至るまでのハードルを下げることにつながる可能性もあ

り、期待しているが、相談数が増えた際の運営側のキャパシティは問題ないか。

図書館事業については、未就園児を対象とした地域の読み聞かせ等を実施いただいていることを知っているが、せっかくの素晴らしい取組みも参加者が継続的に集まらず立ち消えてしまうこともあると聞いて、とてももったいないと感じている。具体的な対策は何かあるか。

いこまスポーツの日の開催とあるが、市民体育祭とは別物なのか、違いを教えてください。

事務局 50周年冠事業、企画提案事業も予定しているので工夫して実施していきたい。

ユニバーサルキャンプは、これまで2泊3日で実施してきたが、集団生活による密状態を懸念している。これまで開催に関わってきた事業者やボランティア、参加者の意見を聞きながら次年度の開催内容を検討していきたい。

オンライン相談については、今後も相談者のニーズに沿って対応していく。なお、通常の対面相談と同様に1回50分の相談予約枠で対応しているので、仮にオンラインが増えた場合でもキャパシティの問題は生じない。

市内各地域に出向いて読み聞かせ等を行っているが、担当される方によっても方針や熱意は様々。毎年度、地域（自治会）の担当の方が交代される場合もあり、継続することが難しい面があるのが実情であり課題であると感じている。

参加者が減少している市民体育祭に代わり開催するのが「いこまスポーツの日」。市体育協会や総合型地域スポーツクラブなど、市内のスポーツ関係者の協力を得て開催する。コロナの影響で制約もあるが、次年度のスポーツ活動につなげるために、今年度はイベントとして3月20日に開催を予定している。

副議長 教師生活を長きに渡って続けているが、社会教育に深く関わるのは初めて。様々な分野で生駒市民のみなさんが活躍している姿に触れて、改めて素晴らしいまちだと感じている。自身の立場として目が向くのは家庭に問題を抱えている子どもたち。社会教育の取組みに参加して欲しい層ほど、参加してもらえない現状があるため、地域の活動にもっと触れる機会をつくる必要があると感じている。

議長 子どもたちが安心して家庭で過ごせるまちづくりを目指し、行政として今できることを見つけて進めて欲しい。配慮が必要なことが多く大変な部分も多

いと思うが、期待したい。

清水委員 生駒市における図書館と学校が連携した取組は新聞で取り上げられるなど、全国的に注目度が高い。耳で読むオーディオブック等、新しいものをこれからも取り入れて発展することを期待している。

事務局 電子書籍やオーディオブックの取組みはこれからも進めていきたい。新しい分野はまだ法の整備も整っておらず、著作権の問題など、課題も多い中でどのように市として活用していくかを考えていきたい。
高齢者や視覚障がいの方だけに限らず、ディスレクシア（学習障がい）の人向けの教育の機会や本に触れる機会を提供していきたいと考えている。
現在は音訳ボランティアの育成を進めており、「ハンドブック 生駒の歴史と文化」を電子書籍のサイトにアップする等、市の刊行物からオーディオブックの作成にも取り組んでいる。

中嶋委員 コロナ禍がいつ収束するのか、いまだに見えない状況が続くが、生駒の人財を守るため、文化芸術団体への活動支援についても検討していただきたい。

浦林委員 社会教育に関連した事業については、実際に現場に出向くと肌で感じて見えてくることも多い。委員のみなさまの所属団体の行事なども積極的に事務局を通して告知いただきたい。行事に出向くことで評価の視点を持つことも出来るので、情報は積極的にシェアして、社会教育委員としての役割を果たしていきたい。

事務局 今年度最終の会議となるが、今後、課題や成果などもこの会議の場で共有できるよう、新年度は例年どおりの実績報告のみではなく、本日、配布した「教育大綱アクションプラン」の実績等も踏まえ、評価や課題を議論できる会議にしたい。

議長 次年度は、コミュニティ・スクールの実践を見学できる機会もつくりたいと考えている。

内容（2）その他

事務局からの事務連絡

閉 会